

東京バッハ合唱団 月報

[第 517 号] 2005 年 7 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.517

July 2005

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

愛するわが羊 いずこに迷いし

桜新町・世田谷中央教会で「教会カンタータの夕べ」

来たる 7 月 30 日の世田谷中央教会演奏会では、カンタータ第 85 番《われは 善き牧人》と関連させて、宗教歌曲 愛するわが羊 いずこに迷いし BWV507 の全 9 節のうち、5 節を斉唱します。

これは昨年 5 月の第 96 回定期演奏会のアンコールで、ソプラノ光野孝子、テノール平良栄一のお二人で歌っていただいたものです。全 9 節は、次のように イエス、善き牧人と小羊の 2 役によって成り立っています。

第 1 節から第 6 節まで.....イエス

第 7 節.....小羊

第 8 節.....イエス

第 9 節.....小羊

このように、2 人の人物がドラマのように交互に歌うという形式は、とても興味深いのですが、バッハの宗教歌曲全 69 曲のうちで、この 1 曲しかありません（み力によりて光に導き BWV464 では、呼びかけと「神の応答」、もう 1 曲のいかに幸なるなれらみもとに召されし者 BWV495 では、呼びかけと「応答」となっていますが、この BWV507 のようなドラマが展開されるわけではありません）。

カンタータ第 85 番に先立って、この歌曲で、迷った羊が牧人に見いだされるまでのストーリーを聞くことにより、よき羊飼いのイメージが、いっそう身近なものとなるでしょう。

宗教歌曲 第 6 番 愛するわが羊 いずこに迷いし

„Wo ist mein Schäflein, das ich liebe“ BWV507

大村恵美子訳詞

1. (イエス いとよき牧人)

愛する わが羊
いずこに 迷いし
われより 離れて
いたく われは 憂いぬ
牧場と 柵(さく) 知るや
なが つくりぬしは
呼びさまし まさ道
もどりくるを 待つ

7. (小羊)

荒野に きく 声は
たが 呼ぶ 声なる
まきびと ならんや
かえりこよ と 聞こゆ

2. (イエス)

小羊 かえりこよ
なれを かく 愛し
はぐくむ ばかりの
なが まきびとの もとに
なれを たずねいだし
肩に いだくべし
ふたたび 迷わせず
わが 愛に とどめん

われをも 待ちたもうや
迷うを われ 知る
足も はや つかれて
たすけを われ 願う

8. (イエス)

わが 声 聞きて なれ
かえりくる 日 まで
さがし 呼びつづけん
わが 胸に いだきて
安らかに いこわせん
わが まもり あれば
もはや なれは わなに
おちいる こと なし

9. (小羊)

主よ なが 声 聞きて
われは 走りよる
われを 解きはなち
むれに もどしたまえ
主を 知る 羊らは
なれと ともに 生く
われをも なが 胸に
しかと いだきたまえ

<夏の特別演奏会>

J.S. バッハ 教会カンタータの夕べ

日時：7月30日(土), 午後6時 開演

会場：世田谷中央教会

(東急田園都市線「桜新町」駅下車4分)

入場無料

カンタータ第 137 番《ほめよ主を 強き栄えの主を》より

1. 合唱 ほめよ主を 強き栄えの主を
3. 二重唱 ほめよ主を 巧みになれを造り (S/B)
5. コラール ほめよ主を その聖きみ名を

宗教歌曲 愛するわが羊 いずこに迷いし BWV507

- 1, 2, 7, 8, 9 節

カンタータ第 85 番《われは 善き牧人(まきびと)》

1. アリア(B) われは善き牧人
2. アリア(A) イエスは善き牧人
3. コラール(S) 主はわが頼める
4. レチタティーヴォ(T) みな眠るとき
5. アリア(T) みよ 愛のみわざ
6. コラール まことの牧人

カンタータ第 147 番《心と日々のわざもて》より

1. 合唱 心と日々のわざもて
10. コラール イエス わが喜び

<演奏者>

合唱：東京バッハ合唱団

ピアノ：渡辺敏生

指揮：橋本眞行 (BWV137, BWV147)

大村恵美子 (BWV507, BWV85)



《善き羊飼》
大理石像, 3世紀末, ヴァティカン
ピオ・クリスティアーノ美術館

バッハの「宗教歌曲」と『シエメルリ歌曲集』

「宗教歌曲」Geistliche Lied というジャンルは、文字どおり geistliche (宗教上の、教会の) Lied, er (リート、歌、歌曲) であって、聖歌・讃美歌のことです。ただし、バッハの音楽に関しては、4声に和声づけしたコラールと区別して、独唱または斉唱でうたう単旋律の讃美歌を称します。

バッハ当時のルター派プロテスタントの生活圏では、民衆の言葉(ドイツ語)による、おびただしい数のコラールやリートが生みだされ、教会でも家庭でも、さまざまな機会に歌われたようです。また、それらの宗教歌を集めた歌集・曲集の出版も盛んで、ここで取り上げた「愛するわが羊 いずこに迷いし」„Wo ist mein Schäflein, das ich liebe“も、1736年にライプツィヒのブライトコプフ社から出版された、ある曲集に採録されたものでした。この曲集には954曲もの歌詞が集められていますが、そのほとんどは、楽譜の記載がなく、旋律名だけが書かれているのだそうで、これで用を足せるのですから、いかに多くの曲が、限られた数の有名な旋律、あるいは流行の旋律に乗せて歌われていたかが想像されます。

この中に、楽譜の記載されている曲が69曲あり、曲集の序文によると、これらはバッハが新たに創作するか、または通奏低音を付す過程で、旋律に手を加えたもの、とされています。この69曲を歌詞の冒頭句のアルファベット順に並べたものがBWV番号の439から507までであり、本日の曲„Wo ist ...“は、その最後のBWV507になるわけです。

この曲集の編集者は、バッハの知人であり、別の町の教会合唱長をしていたシエメルリ (Georg Christian Schemelli, 1676頃-1762) という音楽家だったことから、『シエメルリ歌曲集』と称されることになって、後世に多くの愛好家をもつことになったものです。

ちなみに、『新バッハ全集』の1冊として出版された楽譜では、曲の内容(朝と夜、イエスの生誕・受難・復活、イエスへの愛、人生の喜び・苦難・死など)によって整理されて曲番が付されています(本日の曲は、第6番)。大村恵美子訳詞『J.S.バッハ宗教歌曲集』は、この新バッハ全集の日本語版にあたるものです。☞

2007年《マタイ》公演後の演奏計画 選曲のヒント

大村 恵美子

私たちの合唱団は、これまで常に長期計画のもとに、2、3年先の選曲を心がけてきました。いったん2007年の創立45周年に《マタイ受難曲》上演をうち出して、いまはそれに向かって気持ちを集中させているところですが、『カンタータ50曲選』の楽譜出版が完成し、その定期演奏会における録音CD製作も、あと2年で完結しようとしている現在、2007年春の《マタイ》後は、空白のまま残されています。

これまでどおりに続けてゆこう、という大筋は、合意されたのですが、当面の問題は、

1. 定期演奏会を年2回に保つか。
2. 選曲をどうするか。
3. 上記2点に関連するが、12月定演ごとに《クリスマス・オラトリオ》を取り上げてきた慣例を、今後もつづけるのか。

というようなことが挙げられます。

もう、これからは、私の考えよりも団員自身の意志によって何でも決めてゆけばよい、と、私自身も希望します。けれども、現存するバッハの教会カンタータ192曲の全曲訳詞をし終えた私でさえも、そのあまりの膨大さに気が遠くなるほどで、これをどう扱ってよいのか、茫然とする思いです。あちらこちらの団体で、全曲演奏を決意して始めるものの、それを長期にわたりやり遂げることはほとんどありません。

そこで、なるべく現実的な考え方から、行き当たりばったりでもなく、ある程度、組織的につけられる方法を考えてみますので、それを団員の皆さんがかなり時間をかけて、実現まで漕ぎつけさせていただきたいのです。骨子のみをお伝えします。あとはどのようにでも、臨機応変の決定をしていただければと願っています。

『50曲選』以外のカンタータ(192曲 - 50曲 = 142曲)の訳詞も、すべて楽譜原稿の状態になっていますので、その出版も具体化させたいと思います。

* * *

上述した当面の3つの問題にそって考えてみましょう。

1. 年2回の定期演奏会を、私は必要だと思います。1回ごとに並々ならぬ苦勞をしますが、これが年1回になると、練習の出席も減り、まだ手をつけていない名曲が山づみしているのに、低調に向かってしまうような気がします。私の希望としては、5月と12月に続けていただきたい。

2. 3. 両方同時に考えて、《クリスマス・オラトリオ》は演奏しつづけたいが、毎年である必要はなく、12月には、クリスマス用にかぎらず、トランペット、ティンパニなどを含む規模の大きな、華やかな作品を選ぶ。5月には、弦・木管を主体とした、どちらかと言えば小規模の室内乐的な曲にする。

このような原則に基づいて、選曲はつぎの3つのカテゴリーから成立させる。

『50曲選』のうち、私どもの定期演奏会で使用しな

カンタータ第123番

《いとしインマヌエル わが魂の救い主よ》

„Liebster Immanuel, Herzog der Frommen“ BWV123

訳詞 / 解説：大村恵美子

ったものが22曲残っているので、そこから年2曲程度をとり入れる。

『50曲選』以外の142曲のうち、既演曲61曲と未演曲81曲とを、バランスよくとり入れる。

ただし、それらの中には独唱カンタータや、合唱は終結コラールのみという曲も多いので、それらは原則として定期演奏会からは外し、臨時の企画として補うことにする。

モテットその他、教会カンタータ以外の曲を、希望に応じて自由にとり入れてゆく。

* * *

以上のような観点から、10年分の大まかな案を考えました。これを参考にして、すばらしい具体案を、皆さんの手でうち出していただけよう、楽しみにしています。

「バッハ・カンタータ50曲選」楽譜未使用の22曲から

2007年	(12月未定)	45周年
2008年	BWV 4, 6, 8	
2009年	BWV 19 ^大 , 21 ^大 , 39	
2010年	BWV 41 ^{大冬} , 42	
2011年	BWV 45, 63 ^{大冬}	
2012年	BWV 68, 71 ^大	50周年
2013年	BWV 76, 80	
2014年	BWV 84 ^{Sコ} , 104	
2015年	BWV 110 ^{大冬} , 124 ^冬	
2016年	BWV 131, 150	
2017年	BWV 190 ^{大冬} , 196	55周年

大：大規模、トランペット・ティンパニ使用
冬：冬期用（待降、クリスマス、新年、顕現節等）
コ：合唱は終結コラールのみ。 S, A, T, B：各独唱用

A 未刊行楽譜142曲中の既演61曲から（10年に分割）

2008年	BWV 2, 3 ^冬 , 5, 7, 9, 10, 11
2009年	BWV 12, 18, 22, 23, 24, 28 ^冬
2010年	BWV 31 ^大 , 37, 38, 46, 50 ^大 , 51 ^S
2011年	BWV 54 ^A , 59 ^大 , 64 ^冬 , 65 ^冬 , 66, 67
2012年	BWV 70, 75, 79 ^大 , 82 ^B , 83, 86
2013年	BWV 91 ^大 , 100 ^大 , 101, 107, 112 ^冬 , 117
2014年	BWV 120 ^大 , 126, 132 ^{大冬} , 133 ^冬 , 134, 151 ^冬
2015年	BWV 152 ^冬 , 154 ^冬 , 155 ^冬 , 158, 159, 161
2016年	BWV 162, 164 ^コ , 167, 171 ^{大冬} , 172 ^大 , 173
2017年	BWV 178, 182, 184, 185, 186, 199 ^S

B 未刊行楽譜142曲中の未演81曲から（10年に分割）

2008年	BWV 13 ^{コ冬} , 14 ^冬 , 17, 20, 24, 27, 32 ^{コ冬} , 33 ^冬
2009年	BWV 34 ^大 , 35 ^A , 43 ^大 , 44, 48, 49 ^{S B} , 52 ^コ , 55 ^コ
2010年	BWV 57 ^{コ冬} , 58 ^{S B冬} , 60 ^コ , 62 ^冬 , 69 ^大 , 73 ^冬 , 74 ^大 , 81 ^{コ冬}
2011年	BWV 85, 87 ^コ , 88 ^コ , 89 ^コ , 90 ^コ , 92, 94, 95
2012年	BWV 96, 97, 98, 102, 103, 105, 108, 109
2013年	BWV 111 ^冬 , 113, 114, 115, 118, 119 ^大 , 121 ^冬 , 122 ^冬
2014年	BWV 125, 127, 128, 130 ^大 , 135, 136, 138, 139
2015年	BWV 143 ^{大冬} , 144, 145 ^コ , 146, 148, 149 ^大 , 153 ^冬 , 157 ^コ
2016年	BWV 163, 165, 166 ^コ , 168 ^コ , 169 ^コ , 170 ^A , 174 ^コ , 175 ^コ
2017年	BWV 176, 177, 179, 181, 183 ^コ , 188 ^コ , 191 ^{大冬} , 195 ^大 , 198

この演奏計画と、新しい楽譜の出版計画とが連動できれば理想的なのですが、これについては、皆さんの知恵に期待することにしましょう。☺

【訳詞】

1. 合唱

いとし インマヌエル
わが魂(たま)の救い主よ 来ませ とく
尊き なれは わが 内に 愛の 火 灯し
慕わしむ なれを
地に ありて
他(ほか)に なし
主を 抱く 願いのみ

(Ahasverus Fritsch 1679 第1節)

2. レチタティーヴォ (アルト)

み国の 幸 その 喜び
地なる わが 胸 満たす
イエスの 名 呼びまつり
み糧(かて)を 悟る とき
砂地を 露 うるおす
心も
主の 力に 生かされ
悩みに うち克つ

3. アリア (テノール)

十字架の 旅路も
苦き 涙をも
われは 恐れず
嵐の さなかに
イエスは 救いと 光を
上より われに 賜(たま)う

4. レチタティーヴォ (バス)

黄泉(よみ)の 敵(あだ)も
われを 呑みつくす 能(あた)わず
とり囲む 敵(てき)も むなし
死の 力 失せぬ
勝利は すでに われに あり
救いの 主 イエス 現る

5. アリア (バス)

世は われを ひとり
捨ておくも よし、孤独の うちに
イエス われに 来たり
わが まこと 受け入れ
共に 在(いま)したもう

6. コラール

世は おろかの 道 たどれ
イエス わが もの、われ 主の もの

わが めざすは 主の みもと
 わが 内には なれ のみ
 わが すべて
 主に 献ぐ
 墓に 入(い)る その日 まで

(同上 第6節)



【解説】

初演：1725年1月6日（顕現節），ライプツィヒ．

曲題名と同名の，A. フリッチュ作コラール いとしインマヌエル，敬虔な人々の君よ（Ahasverus Fritsch, „Liebster Immanuel, Herzog der Frommen“）を基本コラールとするコラール・カンタータ 冒頭合唱にこのコラールの第1節を，最終合唱に同第6節（最終節）を用い，中間の第2 - 5曲では，コラール第2 - 5節の歌詞がパラフレーズされた（書き換えの作者は知られていない）．

基本コラールは，比較的新しく（1679年）つくられたものだけあって，近代的にホモフォニックな旋律で，しかも2小節単位の，息の短い，整然としたフレーズである．（1996年に全訳出版した『J.S. バッハ宗教歌曲集』では第54番 BWV485に同曲があるが，この際には，なだらかな旋律を特徴とする歌曲として，私は4小節単位の感じで訳した．今回カンタータ第123番の冒頭合唱として訳す場合，各声部が短い動機で組み込まれていることもあって，全面的に新しく訳しなおした．ご参考に供するため，アンコール曲として，宗教歌曲 いざ来たれ インマヌエルよ を歌っていただき，両方の訳詞の効果を聞き比べていただくことにする．）

この日の福音書，マタイ 2：1-12「東方の博士たちのベツレヘム来訪」の内容は，具体的には歌詞に含まれず，むしろ神の子イエスを インマヌエル と名づけるという，この名前の意味を重んじながら展開する．この福音書個所のすぐ前「イエスの誕生」で，こう記されている：「見よ，おとめが身ごもって男の子を産む．その名はインマヌエルと呼ばれる」（イザヤ7：14）．この名は，「神は我々と共におられる」という意味である．」（マタイ1：23）．

神の慈愛のあらわれであるイエス＝インマヌエルにふさわしい 柔らかい音色のフルート2本とオーボエ・ダモーレ2本が，このカンタータ全体の主要なトーンとなる．独唱は，ソプラノなしのアルト，テノール，バス．1.と6.の合唱の枠のなかで，2-3. レチタティーヴォ(A)とアリア(T)，4-5. レチタティーヴォとアリア(B)が置かれ，2.と4.は，簡潔なセッコ・レチタティーヴォ．3.アリア(T)は，オーボエ・ダモーレ2と通奏低音のトリオに，テノールが器楽と同様の曲りくねった旋律で，十字架の旅路にのぞむ心境を歌う．5.アリア(B)は，フルート独奏と通奏低音をともなあって，孤独な自己とともにいます神の子インマヌエルを，軽やかに歌う．

1. 合唱

コラール旋律冒頭2小節（譜例）の， いとし インマヌエル Liebster Immanuel が，8分の9拍子のシチリアーナのリズムにのって，主として前・間・後奏の器楽パートで，ほとんど間断なくくり返される．

<器楽>

フルート	18回
オーボエ・ダモーレ	16回
ヴァイオリン	12回
ヴァイオリン	8回
ヴィオラ	7回
通奏低音	23回

<合唱>

ソプラノ	2回
アルト	3回
テノール	3回
バス	1回

神 - イエス - 人間の魂をつないで愛に燃えさせたせる，クリスマスのメッセージのもっとも中心的，かつ感動的な面を描くカンタータとして，シュヴァイツァーも激賞している．

2. レチタティーヴォ（アルト）

イエスの名を呼び，悩みにうち勝ち，喜びに満たされることを，唯一の女声ソロ（アルト）で，短いながらもはっきりと表現する．

3. アリア（テノール）

オーボエ・ダモーレ2，通奏低音およびテノール独唱が，同じような，苦渋にみちた十字架の旋律を，からめ合いながら歌いかわす．中間の速い部分で，嵐のさなかにイエスが光をもって救ってくださると，劇的に歌い，ダ・カーポしてレントの重々しい覚悟の披瀝でおわる．

4. レチタティーヴォ（バス）

5. アリア（バス）

勝利の宣言（4.）から，ひきつづいて勝ち歌（5.）となるが，多くのバス・アリアの代表的なトランペットとの協奏などとは趣きをことにして，ヴィルトゥオーゾ的に華やかで軽やかなフルート独奏が，バス旋律のまわりを飛びめぐる．

内容も，自分は孤独に棄ておかれてもよい，イエスが共にいてくださる（インマヌエル）から，という，ごく肉面的な深い喜びの表現である．ダ・カーポ形式．

6. コラール

基本コラールの最終節が，4声体の堂々たるコラールとなって歌われる．フルート2は，コラール旋律を1オクターヴ上で高々と奏する．わがすべて 主に献ぐ 墓に入る その日まで という終りのフレーズを，エコーのように弱音でくり返して，余韻を残す．

<予告>

第98回定期演奏会
 “ バッハのクリスマスと祝祭の音楽 ”

石橋メモリアルホール

2005年12月17日（土）午後4時開演

カンタータ第123番《いとし インマヌエル》

カンタータ第192番《ああ感謝せん 神に》

カンタータ第197番《主 かたき望み》

《クリスマス・オラトリオ》より第64曲

S：光野孝子 A：佐々木まり子 T：佐伯雅巳 B：渡邊 明

オルガン：草間美也子

管弦楽：東京カンタータ室内管弦楽団

合唱：東京バッハ合唱団

指揮：大村恵美子/橋本眞行